

## ■実施日

令和7年9月22日（月）

令和7年9月29日（月）

令和8年2月21日（土）

## ■概要

小諸市では、水循環全般に関する、特に若い世代の参画を継続的に促すことを目的に、株式会社ソトコトの指出アドバイザーを招き、高校生を対象にした「小諸の水の魅力」を言葉で表現する短文作成のワークショップを実施した。その後、高校生の短文発表とアドバイザーとの対談を市民向けに公開形式で実施した。



## ■アドバイザー制度を活用した自治体の感想

- 高校生が地域の水循環について学び、自らの言葉で魅力を表現する力が育まれた。
- アドバイザーの助言により、授業内容が専門的でありながらも高校生にとってわかりやすいものとなった。
- 専門的な知見をわかりやすくお話しいただき、高校生の理解を深めるうえで大変効果的な授業を実施していただいた。生徒たちにも発言を促していただき、対話を通じて相互理解を深める授業となった。
- 対談では、高校生と大人の双方向のやり取りを展開いただいた。生徒の発言を受け止めてさらに発展的な視点を提示する進行は、会場全体にも水循環を「自分ごと」として考える雰囲気醸成した。
- 若年層以外の世代（一般市民）への波及効果はこれからであり、今後は広く市民を巻き込む仕組みづくりが課題と感じた。今後は対談の様子を動画でも発信し、多くの市民に届くよう工夫していく。

## ■実施日

令和7年7月8日(火)

## ■概要

静岡地区地下水利用協議会総会の記念講演(静岡市)に、金沢大学の阪田アドバイザーが講師として出席し、水資源の実態や地下水の利活用について説明した。

## ■アドバイザー制度を活用した自治体の感想

- 「自己水」を水源とするエリアでは、災害時に早期回復が見られたということだったため、官・民一体での災害時の仕組み構築づくりに向け、災害時協力井戸登録の推進や「地下水」資源の認知度向上に向けた啓発活動等、出来るところから始めていきたい。
- 災害時に「断水」の影響が一番大きかったことや深井戸ほど濁水の回復日数に時間がかかっているというデータはとても興味深く、会員の皆様も「井戸水の活用」について再考するよい機会になった。
- 井戸水の活用の様々な課題がある中で、災害時にどのように井戸を活用するのかということについても、「災害時地下水利用等ガイドライン」をふまえ、行政としても検討を進め、協議会運営の中で普及・啓発運動に携われたらと思う。
- 協議会運営の中で活かせる内容、また地下水利用者の方にも親しみをもって「災害時の地下水利用」について再考できる機会をいただけ、とても有意義であった。



## ■実施日

令和7年10月23日（木）

令和7年10月24日（金）

## ■概要

愛知県では、市町村や土地改良区に対して田んぼダムの効果や取組方法等について理解を深めるため、新潟大学の宮津アドバイザーを講師として招き、田んぼダムに関する基本的なことから詳細まで幅広い内容で説明を受けた。また、田んぼダムの取組みを予定している圃場について、普及するための助言を受けた。

## ■アドバイザー制度を活用した自治体の感想

- 田んぼダムの効果を発揮するために優先的に取り組むべきエリアについて助言していただき、計画的に取り組むための参考となった。
- 取組実施中の圃場において、流量調整板の高さについて助言（流量調整板を柵高さより低く設定することが望ましい）をいただき、改善につながった。
- 「流域治水」で田んぼダムの果たす役割や効果を分かりやすく説明していただき、更に参加者からの疑問・意見にも的確に回答していただき、活発な研修会となった。



## ■実施日

令和7年8月20日(水)

## ■概要

伊賀市では、今後の地下水実態把握に向けた検討にあたり、大阪公立大学の遠藤アドバイザーを招き、地域住民及び取水事業者を対象とした勉強会において、専門的知見から地下水についての講演を受けた。

## ■アドバイザー制度を活用した自治体の感想

- ▶ 地域住民にもわかりやすい講演をしていただき、聴講された方からは好評をいただいた。
- ▶ 講演を通じて、水循環に関する知識を地域住民および取水事業者に広く周知し、その理解を深めることができた。
- ▶ 地下水ガバナンスについて地域住民や取水事業者に学んでもらい、水資源の重要性に対する意識を高めることができ、今後の水循環政策の参考となった。



## ■実施日

令和8年1月6日(火)

令和8年1月28日(水)

令和8年2月9日(月)

## ■概要

鳥羽市では、森林から河川・海域に至る水循環を改善し、海域の水産資源回復等に繋げることを目的に、東京大学の蔵治アドバイザーを招き、効果的な森林施業箇所候補地を調査・検討するとともに、蒸散量・土壌含水量・湧水量等のデータ計測・分析方法を探るため助言を受けた。

## ■アドバイザー制度を活用した自治体の感想

- 現地調査と助言を踏まえ、山側の森林管理不足が海域の磯焼け等に直接影響している可能性は低いものの、間接的な要因となっている可能性が示唆された。
- 水循環や水源涵養は、長期的に取り組む必要があることを認識した。
- 次のステップとして、河川水・伏流水・地下水・温泉水の長期データ収集が必要という内容が報告された。今後、視点を変え、地下水の専門アドバイザーによる調査も効果的であると考えられる。



## ■実施日

令和7年11月19日（水）

令和7年12月8日（月）

令和8年1月24日（土）

## ■概要

中讃広域行政事務組合では、地元住民の地下水汚染等への不安の払拭や今後の水質検査等の体制構築を目的に、香川大学の山田アドバイザーを招き、施設周辺及び地元を与える地下水の影響等を調査を依頼し、適切な水質検査の方法や体制の助言を受けるとともに、地元報告会で地元住民との意見交換を行った。

## ■アドバイザー制度を活用した自治体の感想

- 気象の変化による山間部の保水能力の変化、また、そこからくる地下水や水質検査結果への影響等を教えていただいた。
- 井戸水検査の見直しについては、深さの異なる井戸で数カ所を検査する事や、より広範囲に渡って地下水等を採水しデータを取った後に、採水ポイントを絞っていく方法等をアドバイスいただいた。
- 地下水や地質の話など、地元住民や我々の素朴な疑問でも丁寧に回答をいただけた。
- アドバイザーからの意見を踏まえ、当組合の見解や水質検査等に関する今後の取組について報告し、地元住民から概ね理解を得た。



## ■実施日

令和7年7月25日（金）  
令和7年8月21日（木）  
令和7年8月25日（月）  
令和7年11月18日（火）  
令和8年1月28日（水）

## ■概要

松山市では、長期的水需給計画の改訂に向けた検討にあたり、筑波大学の辻村アドバイザーを招き、水需給バランスの評価や新たな水源確保策について、専門的な見地から助言を受けた。



## ■アドバイザー制度を活用した自治体の感想

- 需要・供給の両面で抑えるべきポイントや、本市のこれまでの水資源に関する経緯から、対外的に説明した際に伝わりにくい点などをご教示いただいた。
- 供給可能量の算出方法について、水循環モデルの構築や渇水基準年の設定、取水井取水可能量の算定などの点から妥当性を確認することができた。
- 必要水量について、国のリスク管理型の趣旨について説明していただいたことで、これまでとは異なり複数の水量が提示され、出席者の理解度が高まった。
- パブリックコメント結果とそれに対する市の考え方、さらにそれらを反映させた計画最終案について御意見をいただくことができた。特に、考え方の方向性に懸念がある部分について他市などの動向や、市の考え方を表す際の表現の仕方についてなども御教示いただくことができ、より考え方を整理した上で、分かりやすい表現にすることができた。